

Kansai Economic Insight Monthly

2014/1/21

Vol.9 December/January

・APIR “Kansai Economic Insight Monthly” は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。

・レポート公開時期は毎月第二週金曜日を予定しています。

・執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 研究統括）、岡野光洋・林万平・劉洋（各 APIR 研究員）です。

・本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
景気の現況	2
中国景気モニター	7
主要月次統計	10
Release Calendar	11

要旨

- ✓ 11月の関西の鉱工業生産は前月比-1.3%と2カ月ぶりの低下。10-11月期の生産は全国に比して停滞している。
- ✓ 円安の持続を背景に、11月の関西の輸出額は前年比9カ月連続のプラス。一方、輸入も11カ月連続で増加。結果、貿易収支は3カ月連続の赤字となった。
- ✓ 12月の関西の消費者態度指数は2カ月ぶりに前月比悪化。景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月連続の改善も、先行き判断DIは4カ月ぶりに悪化。消費増税後の懸念が指標に表れているようである。
- ✓ 11月の全国賃金は5カ月ぶりの前年比プラス。10月の関西コア賃金は同6カ月連続のマイナス。
- ✓ 関西の11月の大型小売店販売額は、4カ月連続の前年比プラス。百貨店も3カ月連続のプラス。
- ✓ 11月の関西の新設住宅着工戸数は3カ月連続で前年比増加。持家は10カ月連続、貸家は5カ月連続、分譲は3カ月連続で上昇。
- ✓ 11月の関西の有効求人倍率は0.94倍、2008年6月以降の最高値を更新した。また、関西の完全失業率は前月から大幅に低下した。
- ✓ 11月の関西の建設工事は前年比19カ月連続のプラス。建設工事の伸びは前年比では引き続き好調である。
- ✓ 関西12月の公共工事請負金額は前年比2カ月ぶりのプラス、季節調整値も前月比3カ月ぶりのプラス。しかし期間平均で見れば、10-12月期は前期比マイナスとなっており、減速感が出てきた。
- ✓ 中国2013年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.7%となり、7-9月期から幾分減速し、8%を下回る成長率が8期続いている。結果、2013年実質GDPの成長率は+7.7%となり、前年(+7.8%)より幾分減速した。
- ✓ 12月中国の輸出額は前年比+4.3%と前月から大幅に減速した。対日輸入は同+8.2%と前月(同+2.3%)と大きく加速した。いずれもドルベース。チャイナリスクの影響は引き続き緩和している。

【鉱工業生産動向】

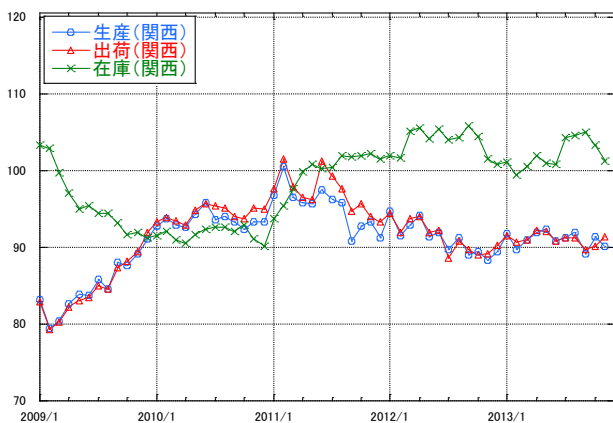
(1) 関西の生産動向

関西における 11 月の鉱工業生産指数（速報値：季節調整済）を見ると、生産は90.2で前月比-1.3%と2カ月ぶりの低下。出荷は91.4で同+1.3%と2カ月連続の上昇。在庫は101.2で同-2.0%と2カ月連続の下落となっている。

業種別に生産指数をみると、一般機械(同-5.3%)、金属製品(同-5.7%)、電子部品・デバイス(同-2.5%)、等が下落した。一方、輸送機械(除. 鋼船・鉄道車両)(同+6.4%)、情報通信機械(同+9.9%)、鉄鋼(同+1.8%)、等が上昇した。

期間平均をみると、7-9 月期は 90.8 と前期比-1.0%に対して、10-11 月期は 90.8 と同横ばい。関西の生産動向には停滞感が見られる。

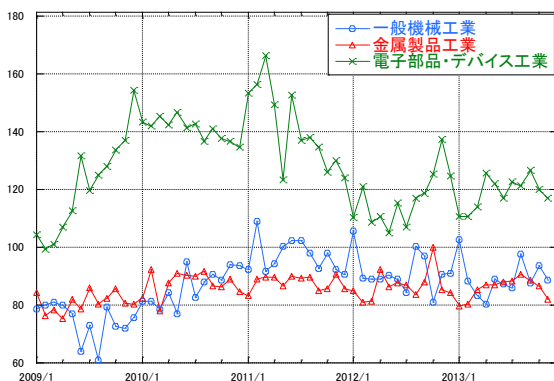
鉱工業指数の推移(関西：2013年11月まで、平成17年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局

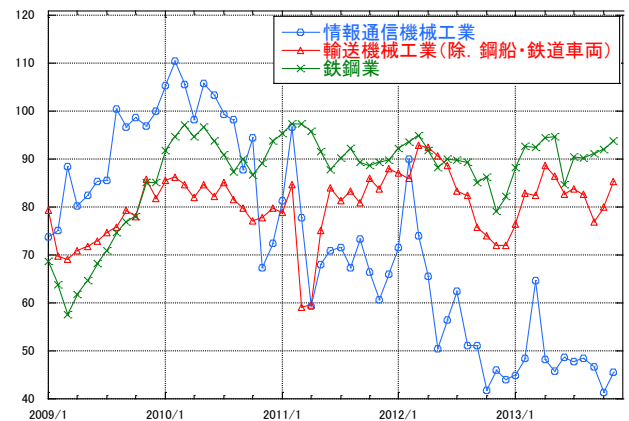
業種別生産指数の推移(関西：2013年11月まで、平成17年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局

業種別生産指数の推移(続き)



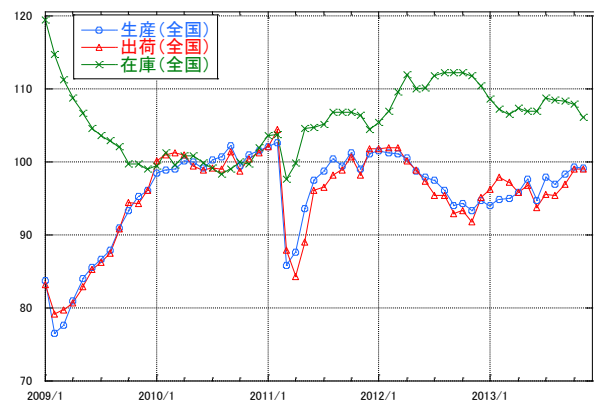
(2) 全国の生産動向

全国における 11 月の鉱工業生産指数（確報値、季節調整済）は 99.3 となり前月比-0.1%と3カ月ぶりの低下。出荷は 99.1 で同横ばい。在庫は 106.1 で同-1.8%となり4月連続のマイナスとなった。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(-3.8%)、電子部品・デバイス(-1.5%)、電気機械(-0.8%)等を中心に生産は低下した。一方、輸送機械(+0.8%)、情報通信機械(+3.9%)、鉄鋼(+2.7%)等は上昇した。

期間平均は、7-9 月期が 97.7 と前期比+1.7%の上昇に対して、10-11 月期は 99.3 と同+1.6%の上昇となっている。四半期ベースで見ると全国の生産は緩やかに改善している。

鉱工業指数の推移(全国：2013年11月まで、平成22年=100)



(出所) 「鉱工業指数」、経済産業省

【貿易動向】

(1) 輸出

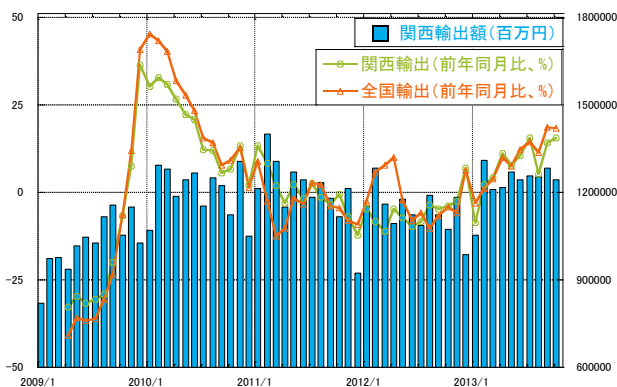
今月は貿易動向のデータ公表(1月27日)が従来のスケジュールよりも遅れるため、近畿、全国共に11月の輸出確報値、輸入速報値のデータを掲載している。

近畿圏における11月の輸出額(確報値)は1兆2,427億円、前年同月比+15.7%と9カ月連続の増加。輸出は、半導体製造装置、鉄鋼、船舶を中心に増加している。

地域別では、アジア(前年同月比+11.4%)、中国(同+19.0%)、米国(同+14.1%)、EU向け(同+36.5%)輸出はいずれも増加しており、特にEU向けの伸びが顕著である。昨年来の円安傾向により円ベースでの輸出の増加が続いている。

全国の11月の輸出額(確報値)は5兆9,004億円、前年同月比+18.4%と9カ月連続の増加。円安の持続を背景に、輸出は近畿、全国共に引き続き大きく改善してきている。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2013年11月まで)



(出所)「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課

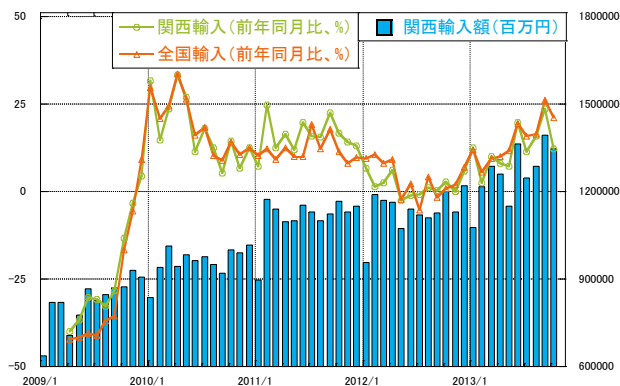
(2) 輸入

近畿圏における11月の輸入額(速報値)は1兆3,472億円、前年同月比+12.2%と11カ月連続のプラス。11月単月では過去最高額を更新した。半導体等電子部品(11月過去最高)、通信機(過去最高)、原油及び粗油(11月過去最高)を中心に、輸入は大幅に増加してきている。

地域別では、アジア(前年同月比+18.3%)、中国(同+18.9%)、米国(同+18.7%)からの輸入が引き続き増加した。一方、EU(同-4.1%)からの輸入は減少に転じ、11カ月ぶりのマイナスである。

全国の11月の輸入額(速報値)は7兆1,945億円、前年同月比+21.1%と13カ月連続の増加となっている。輸入増加には原油、液化天然ガスが大きく貢献しているが、航空機類が一時的に大幅な伸びを見せている点にも留意する必要がある。

輸入(右、100万円)・前年同月比(左、%)推移(2013年11月まで)



(出所)「財務省貿易統計」、財務省

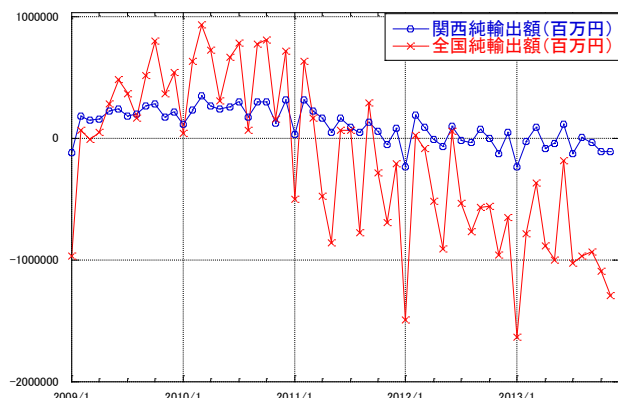
(3) 純輸出

近畿圏における11月の純輸出額は-1,045億円と3カ月連続の赤字となったものの、赤字幅は前年同月から-17.7%縮小した。先月に引き続き、関西の純輸出額は、全国と比較して、若干の赤字に止まっている。また、2013年の11月までの純輸出は、赤字の月が8に対して、黒字の月が3となった。全国とは異なり、黒字の月が見られた。

純輸出を地域別に見ると、対アジア貿易収支は10カ月連続の黒字となったが、3カ月連続で黒字幅は前年比縮小している(前年同月比-56.3%)。うち対中貿易は21カ月連続の赤字であり、赤字幅は3カ月連続で拡大(同+18.9%)している。対米貿易は黒字基調が続いており、貿易収支は2カ月連続の増加(同+6.6%)。対EU貿易は8カ月連続の赤字(同-93.5%)となっている。

全国の11月の純輸出額は-1兆2,940億円と17カ月連続の赤字(前年同月比+35.2%)。貿易収支は近畿、全国共に赤字が続いているが、近畿に比して全国の様子は厳しさを増している。

純輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2013年11月まで)



(出所) 「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課

【消費者センチメント】

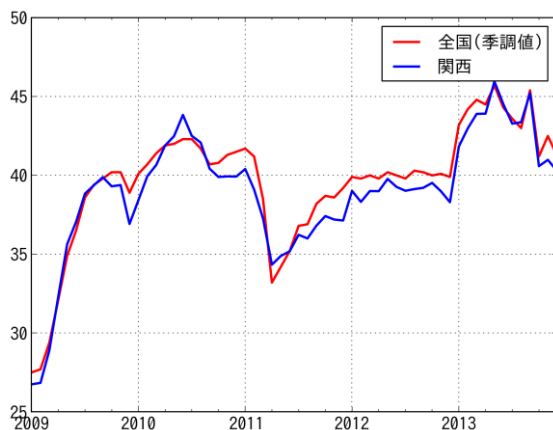
(1) 消費者態度指数の動向

関西の12月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.7ポイント下落し40.3となった。2カ月ぶりのマイナス。

同指数の構成項目をみると、「雇用環境」指標を除く3指標が前月から悪化した。「暮らし向き」が同-1.1ポイント、「収入の増え方」が同-0.4ポイントといずれも2カ月ぶりのマイナス。「耐久消費財の買い判断」は3カ月連続のマイナスとなり、同-1.5ポイントと落ち込みが大きい。一方、「雇用環境」は同+0.3ポイント2カ月連続で上昇しているが、伸びは前月(同+1.0ポイント)から鈍化している。

全国の12月の消費者態度指数(季節調整値)は41.3となり、同-1.2ポイントと2カ月ぶりに前月から悪化した。

消費者態度指数(2013年12月まで)



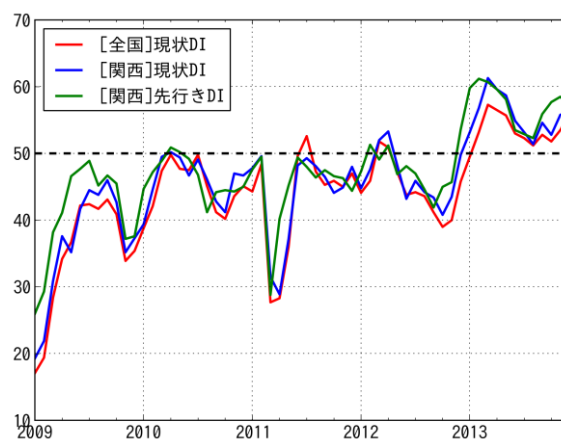
(出所) 内閣府「消費動向調査」(平成26年1月17日公表)

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の12月の現状判断DIは前月比+0.3ポイントの56.1と2カ月連続で上昇した。全国の現状判断DIも同+2.2ポイントの55.7と2カ月連続で上昇。乗用車や家電を中心とする駆け込み需要の動きが影響している。

一方、関西の先行き判断DIは同-1.2ポイントの57.3、全国の先行き判断DIは同-0.1ポイントの54.7といずれも4カ月ぶりに下落。消費増税後の懸念が指標に表れているようである。

景気ウォッチャー調査(2013年12月まで)



(出所) 内閣府(平成26年1月14日公表)

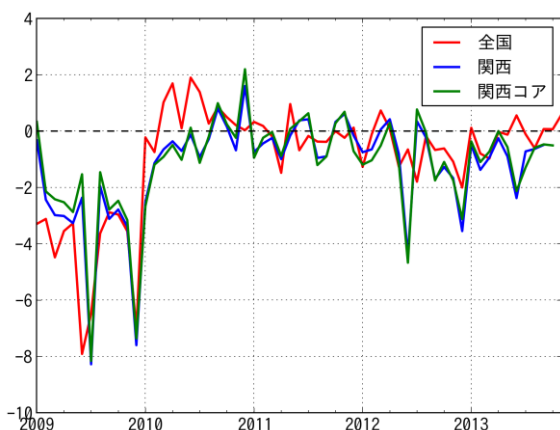
【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

速報性のある「関西コア」指数(京都・大阪・兵庫の現金給与総額の加重平均値、APIR推計)を用いて関西の賃金をみると、10月は前年同月比-0.5%と6カ月連続の下落となった。関西2府4県の9月の現金給与総額(APIR推計)は260,465円と、前年同月比-0.5%減少した。14カ月連続のマイナス。

なお全国では10月に同-0.1%と4カ月連続のマイナスとなったが、11月には同+0.6%と5カ月ぶりにプラスに転じている(いずれも確報値)。

現金給与総額(前年同月比：%、2013年11月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。

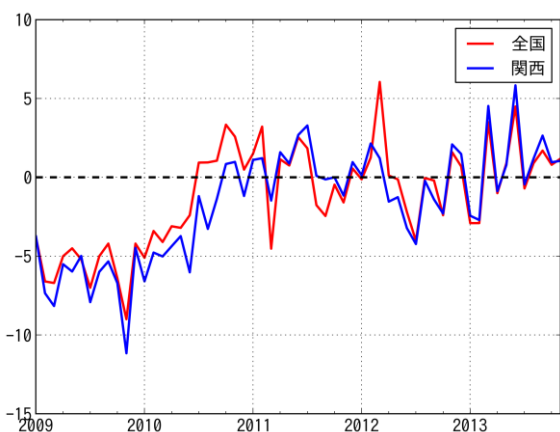
(出所)：厚生労働省「毎月勤労統計調査」(平成26年1月17日公表)を加工

(2) 大型小売店販売額

関西の11月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース、確報値)は、前年同月比+1.1%と4カ月連続のプラス。百貨店も同+1.9%と4カ月連続のプラス、スーパーは同+0.4%と3カ月連続のプラスとなった。

なお全国でも、11月の大型小売店販売額(全店ベース、確報値)は同+1.2%と4カ月連続のプラスとなっている。

大型小売店販売額 (前年同月比：%、2013年11月まで)



(注) 福井県を含む。

(出所) 経済産業省「商業動態統計」(平成26年1月17日公表)

(3) 新設住宅着工の動向

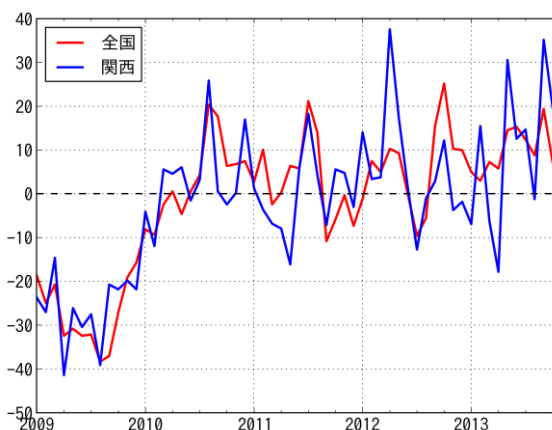
11月の新設住宅着工戸数は13,938戸。前年同月比+37.9%と3カ月連続で上昇。利用関係別にみると、持家は同+33.5%と10カ月連続の上昇、貸家が同+50.9%と5カ月連続の上昇。分譲も同+30.0%と3カ月連続で上昇した。

全国の新設住宅着工戸数は同+14.1%と15カ月連続で上昇。

11月の関西マンション契約率(出所：不動産経済研究所「マンション市場動向」)は79.4%(季節調整値、APIR 推計)。好不調の目安とされる70%を21カ月連続で上回っている。

注文住宅を消費税5%で購入できる請負契約の期限は過ぎたものの、相続税制改正に伴う節税対策もあり、住宅市場は貸家を中心に好調を維持している。

新設住宅着工(前年同月比：%、2013年11月まで)



(出所)：国土交通省「住宅着工統計」(平成25年12月26日公表)

【雇用動向】

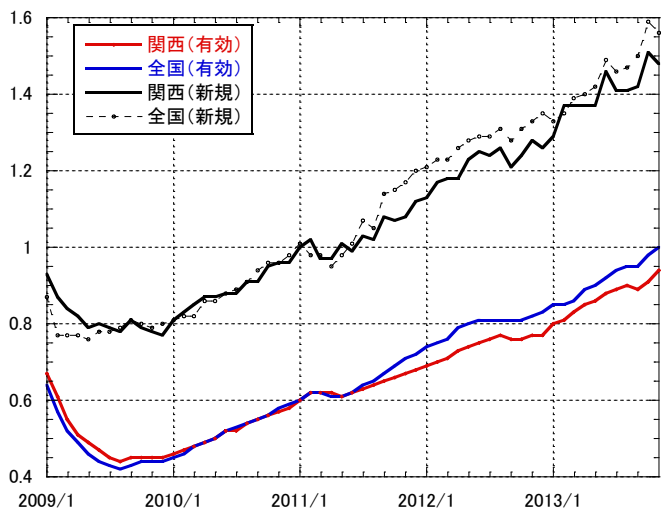
(1) 求人倍率の動向

11月の関西の有効求人倍率は0.94倍、前月から0.03ポイント上昇。2008年6月以降の最高値を更新した。全国は1.00倍で、先月から0.02ポイント上昇。有効求人倍率が1を超えたのは2007年10月以来である。

11月の新規求人倍率は、関西は1.48倍と前月(1.51倍)より4カ月ぶりの低下。全国は1.56倍と4カ月ぶりに低下している。

関西の有効求人倍率を府県別に見ると、大阪府は全国平均より上回り、1.03となったに対して、その他の府県は全国平均より下回った。兵庫県が一番低く、0.78となった。

有効求人倍率の推移 (季節調整値、2013年11月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況 (平成25年12月27日発表)

関西2府4県有効求人倍率(2013年11月)

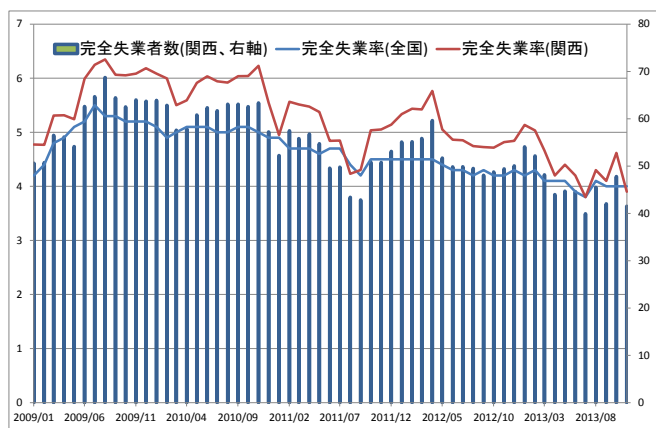
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
11月	1.00	0.94	0.91	0.96	1.03	0.78	0.89	0.96
10月	0.98	0.91	0.87	0.95	0.99	0.77	0.85	0.96

(2) 完全失業率の推移

11月の関西の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は3.9%となり、前月から0.7%ポイント大幅低下。全国の完全失業率(季節調整値)は4.0%となり、前月から横ばい。

関西の完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は41.5万人。前月から6.3万人減少した。有効求人倍率の改善が失業率にある程度反映されていると言えよう。

完全失業率の推移 (季節調整値、2013年11月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」(平成25年12月27日発表)

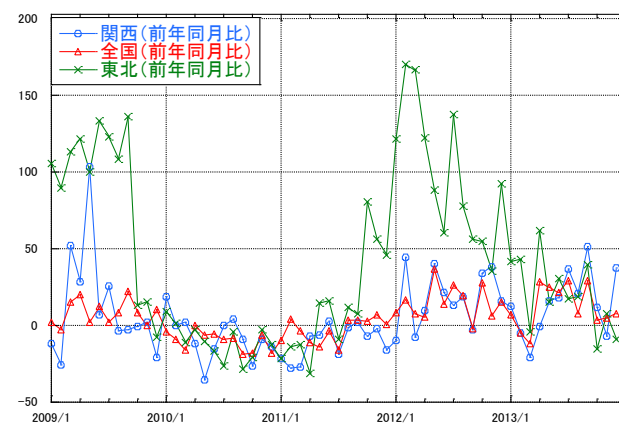
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

関西12月の公共工事請負金額は1,126億円。前年同月比+37.8%と2カ月ぶりのプラス。全国は8,860億円と同+7.5%、9カ月連続のプラス。東北は1,442億円と同-8.7%と、2カ月ぶりのマイナス。東北は前年の水準が高いため伸びに陰りが見られるものの、全国は増加が続いており、足下、関西の伸び幅も大きい。公共工事は前年比では堅調な動きが続くと予想される。

季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は3カ月ぶりの前月比プラス(関西:同+21.0%)、全国は2カ月ぶりのプラス(全国:同+4.7%)となった。ただ、期間平均で見ると、関西の7-9月期平均前期比+7.5%でプラスであったものの、10-12月期は同-6.9%のマイナス。全国は7-9月期で同-5.8%、10-12月期で同-9.4%といずれもマイナス。関西の公共工事は、四半期では今期減少となっており、全国と同様に高水準からの調整が続いている。

公共工事請負金額(前年同月比:%、2013年12月まで)

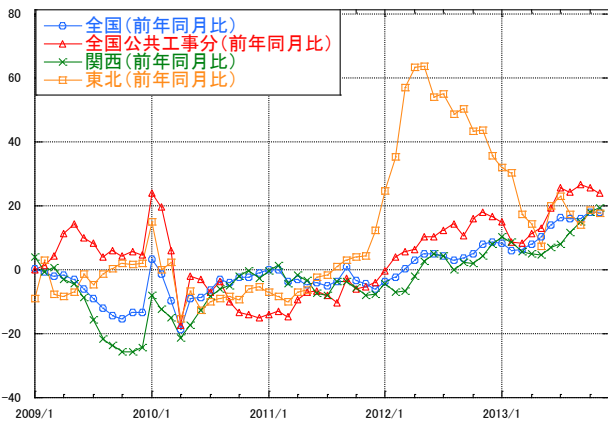


(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

(2) 建設工事

関西11月の建設工事は5,695億円。前年同月比+19.3%と19カ月連続のプラス。この4カ月、関西の伸び率は高水準を維持している。東北は5,898億円と同+17.6%と28カ月連続のプラス。なお同月の全国の建設工事は4兆7,797億円となり、同+17.9%と21カ月連続のプラス。うち公共工事は2兆1,715億円、同+24.2%と22カ月連続のプラス。

建設工事(前年同月比：%、2013年11月まで)



(出所) 国土交通省「建設総合統計」

【中国景気モニター】

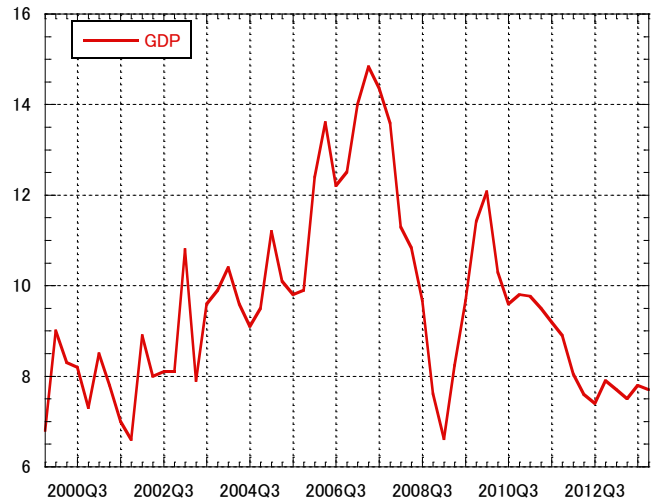
(1) GDP

2013年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.7%となった。7-9月期の同+7.8%と比べて幾分減速し、8%を下回る成長率が8期続いている。

結果、2013年実質GDPの成長率は+7.7%となり、前年(+7.8%)より幾分減速した。業種別にみると、第1次産業の成長率は+4.0%、第2次産業は+7.8%、第3次産業は+8.3%となった。

支出面から寄与率をみると、2013年の実質GDP成長率のうち、資本形成は54.4%となり、最終消費は50.0%、純輸出は-4.4%となっている。前年と比較すれば、資本形成の寄与率は増加し(2012年：47.1%)、最終消費(2012年：55.0%)と純輸出(2012年：-2.1%)の寄与率は低下した。安定成長のためには民間消費の寄与度の拡大が急務である。

実質GDP成長率(2013年第4四半期まで; 前年度同期比：%)



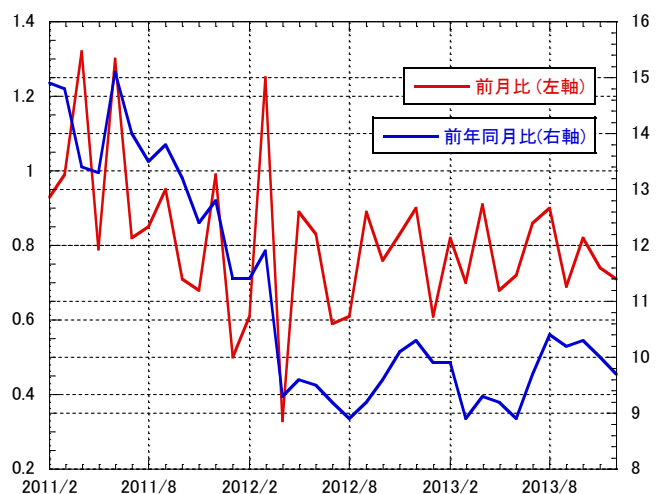
出所：中国国家統計局; CEIC データベース

(2) 工業生産

12月の工業生産は前月比+0.7%となり、前月と同じ伸びである。前年同月比で見れば、12月は同+9.7%と前月(+10.0%)より幾分減速し、2カ月連続の減速となった。結果、2013年の工業生産は前年比+9.7%となり、前年(+10.0%)から幾分減速した。

産業別に見ると、12月は化学原料・製品製造業(前年同月比+12.6%)、自動車製造業(同+20.8%)、電気機械・機材製造業(同+11.0%)が高い伸びを示す一方、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+7.7%)と電力・熱力の生産・供給業(同+5.2%)の伸びは比較的低調であった。

工業生産指数(2013年12月まで：%)



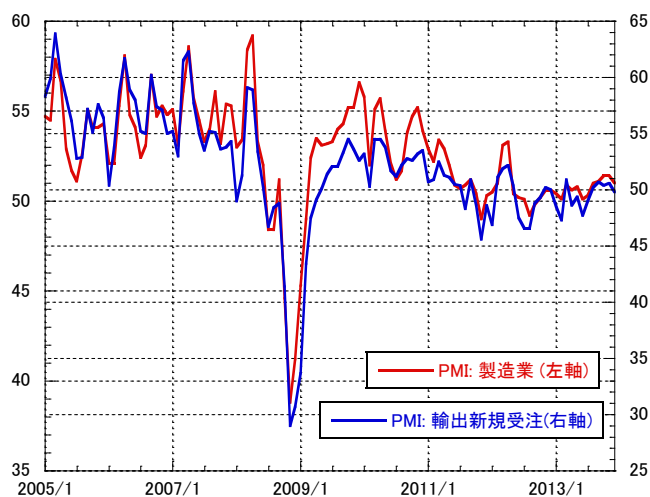
出所：中国国家統計局; CEIC データベース

(3) センチメント

製造業の購買担当者景況指数(PMI)は、12月に51.0となり前月より0.4ポイント低下。うち、生産指数は53.9となり、前月(54.5)より0.6ポイント低下し、6カ月ぶりの悪化となった。輸出新規受注指数は49.8となり、前月(50.6)より0.8ポイントと大幅に低下し、50を下回るようになった。さらに、新規受注指数は52.0となり、前月より0.3ポイント低下した。また、12月の雇用指数は48.7となり、前月(49.6)から0.9ポイント低下した。

12月に製造業 PMI 指標の悪化は、輸出先におけるクリスマス関連製品需要のピークが過ぎたことによる輸出の低迷と、中国の春節が近づく影響によるものだと分析されているが、経済成長の更なる減速が懸念されている。

中国製造業購買担当者景況指数 (2013年12月まで：%)



出所：中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-12月における(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+19.6%となり、前年(同+20.6%)から減速した。4カ月連続で拡大のスピードは減速している。また、産業別の伸びを見れば、第1次産業+32.5%、第2次産業+17.4%、第3次産業+21.0%となった。

固定資産投資 (2013年12月まで：%) (累積伸び率)



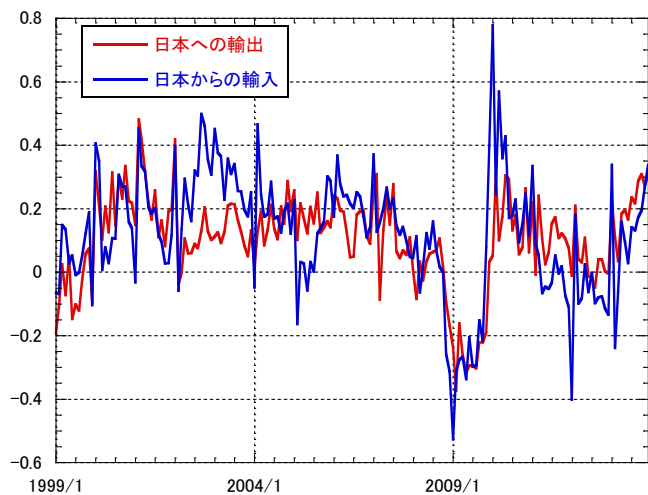
出所：中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 貿易動向

中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は12月に前年同月比+4.3%と前月(同+12.8%、確定値)より大幅に減速した。輸入額は同+8.3%(速報値)と前月の伸び(同+5.3%、確定値)から加速した。

うち日本への輸出額は同+5.5%となり、前月(同+2.9%)から増加した。一方、日本からの輸入額は同+8.2%と前月(同+2.3%)と大きく加速した。チャイナリスクの影響は更に緩んできたようである。円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+30.5%と(前月+27.3%)、日本からの輸入額は同+33.8%と(前月+26.5%)といずれも大幅に上昇した。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2013年12月まで : %)



出所：中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

Contact: 岡野光洋・林万平・劉洋

Tel. 06-6485-7695, E-mail. contact@apir.or.jp

Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
30-Dec	31-Dec	1-Jan 中国製造業 PMI (12月)	2-Jan	3-Jan
6-Jan	7-Jan	8-Jan	9-Jan	10-Jan 中国輸出入 (12月:速報値)
13-Jan	14-Jan 景気ウォッチャー調査 (12月)	15-Jan 近畿鉱工業生産指数 (11月速報) 公共工事前払保証額 統計(12月)	16-Jan	17-Jan 消費動向調査(12月) 毎月勤労統計 (11月:確報値) 建設総合統計 (11月)
20-Jan 中国工業生産(12月) 中国固定資本投資 (1-12月) 中国消費小売総額 (12月) 全国鉱工業生産指数 (11月確報)	21-Jan マンション契約率 (12月) 中国 GDP (2013年)	22-Jan 中国輸出入 (12月:確報値(予定))	23-Jan	24-Jan
27-Jan 近畿貿易統計 (12月速報) 全国貿易統計 (12月速報)	28-Jan 近畿鉱工業生産指数 (11月確報)	29-Jan	30-Jan 商業動態調査 (12月速報) 近畿貿易統計 (12月確速) 全国貿易統計 (12月確速) 全国鉱工業生産指数 (12月速報)	31-Jan 新設住宅着工(12月) 完全失業率(12月) 求人倍率(12月)